

病院のお仕事いろいろ

心と身体の リハビリテーション



作業療法士
診療支援部
リハビリテーション部門

中野渡 友香
(なかのわたり・ゆか)
作業療法士

中野渡さんは、患者さんが日常生活を送るために必要な活動能力を維持・改善するためのリハビリテーションをサポートする作業療法士です。徳島大学病院の作業療法士は、主に入院患者さんのリハビリを行っています。中野渡さん自身も、祖父の入院がきっかけで作業療法士という仕事を知り、志しました。作業療法においては、朝起きて夜眠るまでに行う動作を「作業」と呼び、食事や家事、仕事や娯楽に伴う動作が含まれます。病気が原因でこういった作業が自分でできなくなると、身体のみならず心も弱ってしまいます。そこで患者さんを心身共に支えるのが作業療法士です。「治療とはいえ、楽しくやりがいのあるリハができるよう心がけています。入院中に離床の機会が少ない患者さんでも、作業療法を行ううちに自分の力でできることが増え、次第に生き生きとされる姿にこちらも励まされます。」と中野渡さんは言います。

身体の動きにくさのある方が、日常生活の動作を自分で行えるように道具を工夫した「自助具」と呼ばれるものがあります。自助具をその人に合わせて手作りするのも作業療法士の仕事です。例えば、一人で爪が切れるように支えとなる板を取り付けた爪切りや、手指変形を伴う疾患がある方の動作を支えるための装具があります。「現在は多職種連携に取り組んでいます。リハビリテーション医や看護師と共にカンファレンスを行い、一環となって取り組む体制ができています。」

手作りの自助具と
患者さんが
リハの一環で
作成した模型

